

伊丹ルーテル教会 三位一体主日礼拝 2020年6月7日

前奏：

招きのことば：詩編8：4-10

あなたの天を、あなたの指の業を/わたしは仰ぎます。
月も、星も、あなたが配置なさったもの。
そのあなたが御心に留めてくださるとは/人間は何ものなのでしょう。
人の子は何ものなのでしょう/あなたが顧みてくださるとは。
神に僅かに劣るものとして人を造り/なお、栄光と威光を冠としていただきせ
御手によって造られたものをすべて治めるように/その足もとに置かれました。
羊も牛も、野の獣も/空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。
主よ、わたしたちの主よ/あなたの御名は、いかに力強く
全地に満ちていることでしょう。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うためあなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉を取りつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して 行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、あなたは私たちを御心にとめてくださり、あなたの御子イエス様によって私たちの罪を赦して神の子としてくださいました。新型コロナウイルスの感染拡大とともに、私たちの生活は一変しましたが、その中で私たちに普段経験できないことを経験させてくださいました。また、今日、久しぶりにあなたにある兄弟姉妹とともに、礼拝にあずかることができるように導いてくださいました。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。この一週間、あなたに遣わされているところで、御名のみ栄のために歩ませてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。**アーメン。**

使徒書朗読：第2コリント3：11-13

終わりに、兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つに
しなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。聖なる口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。すべての聖なる者があなたがたによろしくとのことです。主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。

福音書朗読：マタイによる福音書28：16-20

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

讃美歌：66番

1. 聖なる、聖なる、聖なるかな / 三つにいまして 一つなる
神の御名(みな)をば 朝まだ来(き) / 起き出(い)でてこそ ほめまつれ
2. 聖なる、聖なる、聖なるかな / 神の御前(みまえ)に 聖徒らも
冠(かむり)を捨てて 臥(ふ)し拝み / 御使(みつか)い達も 御名をほむ
3. 聖なる、聖なる、聖なるかな / 罪ある目には 見えねども
御慈(みいつく)しみの 満ち足れる / 神の栄えぞ たぐいなき
4. 聖なる、聖なる、聖なるかな / 御手(みて)の業(わざ)なる ものみなは
三つにいまして 一つなる / 神の大御名(おおみな)ほめまつらん **アーメン**

説教：「父と御子と聖霊の名によって」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

イースターからペンテコステまで、8週間の間、オンラインでの礼拝でした。10人の方々にお手紙や訪問で礼拝のしおりをお届けし、10人の方々にメールとSMSで礼拝のご案内をし、そしてラインで30人の方々にのご案内をしました。日曜日ごとに、ある方はしおりを読んでくださり、ある方は音声でみ言葉をたどってください、またある方はYouTubeの映像で礼拝にあずかってくださいました。奏楽のおふたり、動画や音声の編集のおふたりが喜びをもってお力になってくださって、毎週の礼拝が配信されました。新型コロナウイルスの感染拡大がある中で、一週も欠かすことなくみ言葉がこの説教壇から語られました。慣れない、知識も技術もない私たちでしたが、神様がこれを実現させてくださったことに感謝をいたします。そしてまた今日は、祈り、待ち望んだこの礼拝堂での礼拝に、ともに集うことができたことを感謝いたします。

先週の日曜日はペンテコステ礼拝でしたね。ペンテコステの日は、イエス様が去って行かれるときに約束してくださった聖霊のくだった日です。その日使徒たちは恐れから解放されて、当時の全世界からエルサレムに集まってきていた人々に、それぞれの出身地のことばでイエス様の福音を伝えました。今まで話したことのなかったことばを、聖霊が話させてくださった不思議な出来事です。そして同じイエス様の福音が、各地のことばで語られて、集っていた人々はイエス様の与えてくださる罪の赦しと新しい命を、都のことばのわかる特別な人々だけのためではなくて、自分の身近な福音として聞いたのです。驚いたでしょうね。また、うれしかったでしょうね。3000人の人々がその日、悔い改めて洗礼を受けて、罪の赦しをいただきました。彼らの中にはお祭りがおわって家に帰っていった人々もいました。エルサレムでそれぞれが自分の生活のことばで聞いたイエス様の福音を、帰ってから家で、職場で、学校で、市場で、分かち合いました。

さて、伊丹ルーテル教会は本年をもって創立40周年を迎えました。先週のペンテコステ礼拝が記念すべき第1回の礼拝の開かれた日曜日にあたりましたね。この日を覚えて昨年からお祝いのときを計画していましたが、年のはじめには誰も予想しない新型コロナ・ウィルスの感染拡大のため、先週はご一緒に集まってお祝いすることができませんでした。ところがどうでしょう。私たちにとって特別な日曜日を、いつも生活しているそれぞれのおうちで、同時に同じ礼拝にあずかることになったではありませんか。ある意味で聖霊のくだったペンテコステにふさわしい神様のご配慮であったとも思えます。教会で聞く聖書のみ言葉は、生活の場で思い起こされ、生かされていきます。そのようにしてイエス様の福音が私たちを作りかえ、私たちの生活を変革し、私たちから同心円的に人々をかえていくのです。つらい、苦しい現実の中で、復活のイエス様の中に希望を見出し、神様と人々を愛する愛に生き、信じる安心と喜びの目を通して、人生を、そして世界を見ていくのです。これまでの40年がそうであったように、これからの40年も、同じイエス様が私たちを、そして伊丹ルーテル教会を、確かなみ言葉をもって導いてくださいます。みなさん、40周年、おめでとうございます。

毎年、ペンテコステの次の日曜日は、三位一体主日として祝います。父なる神様が約束のひとり子を人類にお与えくださったクリスマス、御子であるイエス様が私たちのために死んでよみ

がえってくださったイースター、そして父と御子が約束してくださった聖霊様が使徒たちに、また信じた人たちにくださったペンテコステ、昨年から先週までの半年間、この3つの日を、父と、御子と、聖霊の、ひとりのまことの神様を覚えてお祝いしましたから、今日は私たちの神様が三位一体の神様であることをあらためて覚え感謝をする日なのです。

マタイによる福音書 28章 19節に、「父と御子と聖霊のお名前によって洗礼を授けなさい」と言われています。日本語で聞くと、気に掛ける人は少ないと思いますが、父と御子と聖霊のお名前、というと、普通3つの名前なので、名前たち、というような複数形で書かれているところなのですが、ここで「名前」は単数形で記されています。父なる神様、御子なるイエス様、聖霊なる神様はそれぞれ互いに区別される方なのですが、しかし3人の神様がおられるのではなく、ひとりの神様ということです。それで聖書には直接書かれていないのですが、このことを一言で、三位一体の神様というように言い表します。ひとりの、一体の神様ですが、三つの位格をもっておられる方、という意味です。

洗礼は三位一体の神様の御名によるみわざです。洗礼は、三位一体の神様が、その存在をかけて、あなたの罪を赦して新しい命を与えてくださるみわざなのです。

父なる神様があなたのことを神様の子どもにしてくださいます。イエス様が命をかけてあなたに罪の赦しを与えてくださったから実現しました。あなたがみ言葉の約束を聞いて、イエス様を救い主として信じることができるようにしてくださるのが聖霊さまの働きです。

神様が天地をつくれ、あなたをつくられたことはご存知でしょう。聖書のみ言葉によって私たちが知ることは、そのスケールの大きな、私たちをはるかに超えた神様が、あなたを大事に思ってくださいていることです。ただ思ってくださいているだけで何もして下さらないのではなく、神様は実際に歴史の中であなたの救いを実現してくださいました。神様は、難しいから手を出さない言い訳の神様ではなく、実行の神様です。あなたが、自分の罪のために一人ぼっちでわがままに生きて、死んでいなくてよいように、神様は救い主を与えてくださったのです。

御子なるイエス様は、神様ですのに人となってくださいました。不可能を可能にされたのです。そして私たちと同じ人間としての苦しみ、辛さ、戦いを経験しながら、神を愛し、人を愛して歩きました。ご自分に罪がないのに、あなたの罪をあなたにかわって担ってください、あなたの身代わりになって恐ろしい罪の刑罰である裁きをその身に受けつくりしてくださいました。恥と呪いの十字架で死んでくださったのです。十字架上で息を引き取る前に、「完成した」と言い残されました。あなたの救いを、イエス様が完成してくださったのです。イエス様によってあなたの罪は赦されました。さらに死に勝利してよみがえってくださったイエス様は、あなたに新しい命を与えます。

しかし、あなたがそのことを知らなかったらどうでしょうか。また、あなたが心をかたくなにして、御子であり主であるイエス様の恵み、父なる神様の愛を受け入れなかったとしたらどう

でしょう。せっかく歴史をかけてあなたの救いが完成しているのに、受け取れなかったらどうでしょう。あなたがこの大きな神様のプレゼントをあなたのものとして受け取る信仰を、聖霊様があなたのうちに作り出してください。聖霊なる神様は、聖書のみ言葉とその福音の説教との出会いをつくり、またそれらを通してあなたのうちに働き、また洗礼や聖餐を通してあなたに生き生きと働いてくださって、あなたがイエス様の救いにあずかることができるように、参与することができるように、今この時も働いてその交わりをあなたの心に作り出してください。イエス様を信頼する新しい心をつくってください。

三位一体主日である今日、三位一体の、ひとりのまことの神様のお名前によって、神様のこともとされたことを喜び、感謝しようではありませんか。

11人のお弟子たちは、よみがえられたイエス様から聞いていたように、ガリラヤ地方に帰って行って、指定された山に登りました。マタイの福音書の28章16節に書いていますね。そこでイエス様と出会いました。十字架にかかってくださったイエス様は、人としての苦しみに耐え、屈辱と暴力を甘んじて受けてくださったイエス様です。今や救いを完成され、天と地の一切の権威を与えられた、父なる神様の右の座にお座りになるイエス様です。弟子たちは思わずひれ伏して礼拝をしました。17節にある通りです。でも、17節にはその弟子たちはまた、イエス様を疑った、とも書いてあります。「しかし、疑う者もいた」というと、大部分の弟子たちは信じてひれ伏したけれど、何人かの弟子は疑ったようだ、と受け取られがちですが、弟子たちはひれ伏した、そして疑った、という意味です。

復活のイエス様に会って、弟子たちはよろこび、また、神様の威厳に満ちたイエス様の前で伏して礼拝をしていますが、それでも彼らには疑う気持ちもあったということです。

私たちはどうでしょうか。長い間クリスチャンとして歩いてきている人でも、目で見ることのできない神様を何の疑いもなく信じて、どんなことがあってもその信仰が揺らがないということはないのではないかと、思います。神様に裏切られた、と思うことがあったり、神様がいるというのはひとつの心の持ち方だ、と思ったり、いないかもしれないけどいるということにしておこう、と思ったり、私たちは自分の信仰を見るとなんとも不安定であやふやな感じがします。特に試練の中で、私たちは信仰が試されます。だれも厳しい現実が長く続くと、自分の信仰の弱さを思い知るものです。同じマタイの福音書で14章に弟子たちの疑いをお叱りになったイエス様のお姿が記されています。弟子たちが嵐の海の上でのっている船が今にも沈みそうになっている大きな試練のなかで、海を歩いて近づいてきたイエス様を見て彼らはさらに恐れて「幽霊が出た！」と震えました。イエス様が、わたしだ！と言われると、ペテロがあなたでしたら私に命じてあなたのもとに行かせてください、と頼みました。イエス様がそう命じられると、ペテロは嵐の中、舟から足を踏み出し、全体重を荒海にあずけてイエス様を見つめて歩き始めたのですが、途中で波や風が気になってイエス様から目がそれました。そのときです。ペテロのからだは海のなかに沈み込みおぼれそうになりました。イエス様はすぐに手を差し伸べてペテロを支え、「信仰の薄いものよ、なぜ疑ったのか」と言われました。二人が舟に乗り込むと嵐がやみ、弟子たちはイエス様をあらためて信じて、イエス様を拝みました。

そうです。私たちも陸の上では確信に満ちていても、足の下の暗闇が底知れない大きな口をあけて待っているような空恐ろしい現実に直面したら、イエス様も神様も疑ってしまいます。私たちの信仰は小さいのです。

自分で理想とする信仰の在り方から、私たちの現実はかけ離れています。しかし自分は情けないクリスチャンだ、自分は2流、3流のクリスチャンだ、とクリスチャンとしての劣等感を持つことはありません。イエス様を礼拝しつつも疑う心も確かにあった弟子たちに、イエス様はかたられるのです。世界に福音を伝えるように使命を与えるのです。弟子たちの信仰深さを信用したのではありません。疑う心もあるのを知っておられます。しかし、イエス様が天においても地においても一切の権威を授かっておられるのです。自分の未熟さ、弱さ、罪深さ、不信仰を自分で治せなくても、何も恐れることはない。イエス様がすべてを統べ治めているからです。あなたを強めてあなたが使命を果たすことができるようにしてくださるのはイエス様です。

イエス様は、あなたは行ってすべての民をわたしの弟子とするのだ、と弟子たちを遣わしました。わたしを信頼してわたしの救いにあずかるように、わたしのことを分かち合ってきた。父と御子と聖霊の御名によって洗礼をさずけて、わたしのことばを守るように教えなさい、とどんどん弟子たちに使命を託されました。自分の罪深さや疑い深さを自分で何とかしようとするのではありません。イエス様はそんなわたしを信頼して使命をたくして下さった権威に満ちたお方です。たよりない自分ではなく、天地一切の権威を授けられているイエス様に信頼をする信仰が新たにされます。

見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいるのである、と約束されました。目に見えないイエス様が、天地の一切の権威をもってあなたと共にいてくださる約束のみ言葉です。マタイの福音書は、クリスマスの前にヨセフに語られたイエス様誕生の理由で始まっています。マリヤはみごもって男の子を生み、その名はインマヌエルと呼ばれる。それは、神は我々とともにおられるという意味でした。御子イエス様は、あなたの主、あなたの救い主として、世のおわりまで、いつも、あなたと共にいてくださる。

11人の弟子たちは、よみがえられたイエス様からすべての民に遣わされました。弟子たちはペンテコステの日に聖霊を受けて、実際にエルサレムからユダヤ、サマリア、および地の果てまで出かけて行って、イエス様が語られたことを伝え、洗礼をさずけて、人々をイエス様を信じる弟子としたのです。

新型コロナウイルスは人から人へ伝染します。肉眼で見えません。でも感染しないように、という政府のことば、お医者さんのことばを信用して、この3か月間人々は行動してきました。間違いやすい人のことばではなく、確かな聖書のみ言葉に約束されているのですから、なおのこと、イエス様が共にいてくださることは信用できますね。自分の信心深さではなく、み言葉の確かさに心をとめましょう。そして、不安で、希望を見失っている人々に、イエス様に

ある安心と、また使命に生きる生きがいを分かち合っていきましょう。イエス様の救いにあずかり、イエス様を人々に分かち合う交わりに、今週も活かされてまいりましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

讃美歌：499番 献金

1. 御霊よ降(くだ)りて 昔のごとく/くすしき御業(みわざ)を 現したまえ
【繰り返し】 代々にいます 御霊の神よ/今しもこの身に 満ちさせたまえ
2. 御霊よ降りて 恵みの雨に/渴(かわ)ける心を うるおしたまえ【繰り返し】
3. 御霊よ降りて 汚れをきよめ/とおとき救いに 入らしめたまえ【繰り返し】
4. 御霊よ降りて か弱きわれを/きよけき力に 富ましめたまえ 【繰り返し】

主の祈り

天にましますわれらの父よ、

願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あみさかえよ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。アーメン。

後奏